

(様式2)

2022年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書

令和5年3月31日

福岡女子大学学長 殿

申請者

所属名 国際文理学部 食・健康学科

職名 教授

氏名 新開章司

事業名 (テーマ)	対面・オンライン併用による地域と連携した体験学習による実践的学修と地域振興 <input type="checkbox"/> 文理統合 <input type="checkbox"/> 国際性 <input type="checkbox"/> リーダーシップ <input type="checkbox"/> 伝統・歴史・感性 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ※いずれかにチェック☑を入れてください。		
事業実施者及び 事業分担者		大学院生及び 学外協力者等	
活動内容及び成果(必要に応じ資料、写真等を添付すること) ※この欄の記載は、大学ホームページ等にそのまま掲載する予定です。 (活動内容) 本活動では、JA筑前あさくら(秋月農業観光部会)と連携し、本学3年生向け「地域ブランド論」の授業を通して、被災地である朝倉地域の課題および地域のブランド化のプロセスを実体験する機会を与え、学生の主体的かつ深い学修を促進することであった。またその学びの成果をJA筑前あさくらに還元することにより、当該地域のブランド力強化に寄与することを企図した。プログラムの内容は、①大学での地域振興やブランディングに関する講義、②朝倉地域における農業関連施設の視察及び農作業体験、③地域の専門家による講演および農業者とのディスカッション、④学生による課題解決策の提示(プレゼンテーション)を行った。加えて、オンラインによる交流を併用し、前年までのコロナ禍での経験を活かし、費用を抑えつつ密接な連携ができた。本活動での成果は、食育・地産地消ふくおか県民会議主催の「令和4年度食と農に関する公開講座～生きぬく力が育つ食と農体験～」で報告を行った。  (成果) 学生は、朝倉地域を実際に訪問し、農作業(梨の袋掛けや収穫等)を実地に体験し、現場に行かなければわからない、五感を使った貴重な体験ができた。また農家の方々との対面によるコミュニケーションを通して、農業現場の課題や困難について、より深く理解することができたと思われる。現場での体験を通して主体的に課題を発見し、教室内での理論的学びと結びつけ、解決策の提示(プレゼンテーション)を行うことができ、主体的で実践的な学修につながったと思われる。さらに、学外でのシンポジウムで成果を発表する機会を得て、自らの体験を言語化し、他者と共有するプロセスを通して、今回の体験と学びを振り返りつつ自分のものとし、次なるアクションへの動機を高めることができたと思われる。 このような機会を提供いただきましたJA筑前あさくら秋月農業観光部会の皆さまをはじめ、ご支援いただきました皆さまに感謝申し上げます。			